



# 2018年SNWシンポジウム

パネルディスカッション  
「エネルギーミックスのあるべき姿は」

2018年10月13日

東京大学武田先端知ビルホール

## 討論にあたっての基本姿勢

- 原子力と再エネとどちらが正しいかの論戦ではない。  
言い負かすのが目的ではない。前向きの議論を。
- 21世紀半ば以降を見通した長期的な視点から議論する。
- 次ページに示す「前提条件」を念頭においた上で、  
将来のエネルギー利用のあり方、  
エネルギー供給者と需要家の姿について考えたい。
- エネルギーの在り方を議論する際に技術論は避けて通れない。しかし技術的な問題はある程度時間をかければ解決可能だとみて、  
むしろそうした技術開発を可能にする政策を考えたい。

## 討論の前提条件

- CO<sub>2</sub> 排出 80%削減を目指す。  
（実現可能かどうかは別に）
- 国民の生活水準を落とさない。  
（ムダな消費は減らすことはあっても）
- 言い換えれば、  
エネルギーコストの極端な上昇は回避する。  
国際的に競争力のあるエネルギー産業群と雇用を  
国内に維持する。
- 電力自由化（発送電分離）はスケジュール通り進める。

## モデレーターから尋ねたいこと①

### 1) 再エネを真に主力電源にするには何が必要か？

- 日本で再エネの発電コストを下げていく方策は。
- FITがなくても採算がとれるようになるのか。
- 自然・生活環境にマイナスの影響を及ぼさずにどこまで拡大可能か。
- 環境・景観破壊を防ぐための規制は量的・経済的制約になるか。
- 出力変動の調整のために使われる火力発電を減らす方策はあるのか。
- 比較的低コストで普及が可能な電力貯蔵技術の選択肢は何か。

## モデレーターから尋ねたいこと②

2) 原子力を重要な電源として維持し続けるには何が必要か？

- 国内で新規建設を実現するにはどのような方策が要るか？
- 新規立地を容認する自治体はあるか。
- 政権が新規建設を容認しうる条件は何か。それをどう実現するか。
- 自由化市場でいかに経済性を維持するか。民間企業が建設できるのか。
- 日本の原子力産業をどう維持するのか。
- 維持のため海外での原発受注は不可欠か。それはどの程度可能か。

## モデレーターから尋ねたいこと③

3) エネルギー需要構造の変化を進めるには何が必要か。

- 家庭、産業部門の省エネはどこまで進められるか。有効な方策は何か。
- エネルギー消費の効率化で切り札となりうるような技術革新はあるか。
- 運輸部門の電化（EV化、PHVやFCVを含む）をどのように進めるか。
- 需要家（消費者）が電源を選択することの意義をどう考えるか。
- RE100は豊かな企業が「きれいな電気」を買い占めることにならないか。

## モデレーターから尋ねたいこと④

4) エネルギー供給システムの災害対応をどう考えるか。

- 半世紀の間に南海トラフ地震や大規模な風水害の発生がありうると考え、レジリエンス（復元力、耐久力）のある供給システムをどう実現するか。